

■越谷市観光振興計画(案)に対する意見要旨と市の考え方について

No.	該当箇所	意見要旨	意見等に対する市の考え方
1	P21の観光入込客数について	「越谷市の観光入込客数」にイオンレイクタウン来訪者数を含めてよいのか。	観光入込客数については、施設やイベントに訪れる目的や規模、さらには、数が適切に把握できることなどの一定の要素を満たすものについて掲載しています。イオンレイクタウンには年間約5,000万人が来訪しています。交流人口を観光を結びつける観点からイオンレイクタウンの集客力は、まちづくりに大きな可能性を有しています。重要な観光資源として捉え、連携と回遊性の向上を高める施策に取り組みます。
2	P21の観光入込客数について	越ヶ谷宿が掲載されていないのはなぜか。	観光入込客数については、施設やイベントに訪れる目的や規模、さらには、数が適切に把握できることなどの一定の要素を満たすものについて掲載しています。越ヶ谷宿の入込客数については、当該エリアで開催されている「雛めぐり」や「甲冑めぐり」のイベント来訪者が、観光入込客数として数えられています。
3	P27の4-1「越谷市観光の将来像」	越谷市観光の将来像が実現すれば、市民はどうなるかという将来像も記述するべきだと考えるがいかがか。	越谷市観光の将来像「人と水と緑を結ぶ スマイル創造・交流タウン “こしがや”」では、地域で暮らす住民等が、水辺空間や田園風景などの自然景観を背景に、歴史、文化、伝統、文化、食、エンターテインメント、産業などの地域資源でつながり、地域に誇りや愛着を持つことで、たくさんの笑顔であふれるまちをつくることを目指しています。また、当該計画策定の目的として、地域に対する経済波及効果や雇用創出、さらに魅力ある越谷ブランドを確立し、住んでよかった、訪れてよかったまちづくりを進めると整理しています。
4	P28の基本方針6「シックプライド(郷土愛)の醸成と観光人材の育成」	「観光人材」とは、どのような人材を意味しているのか。	魅力ある観光を推進し、持続的に発展させていくためには、観光を担う推進体制を強化し、関係者それぞれが理念を共有して取り組んでいく必要があります。このような観点から、観光業に従事する人だけでなく、農・商・工の事業者や市民団体やNPOなどの関係者が一体となって、地域の観光を牽引するリーダーやおもてなしの心を実践する観光ボランティアなどを育成します。
5	P31の基本方針1①「観光資源の分類と再ブランディング」	訪日外国人旅行者は、今まで観光資源として捉えていなかった地域の生活や工場見学、日本文化の体験などを望む傾向にある。新たな観光資源の開発に関しては、インバウンド観光を考慮すべきだと考えるがいかがか。	越谷市には、だるまの絵描き体験やせんべい焼き体験など、日本の文化や伝統に触れることのできる体験交流型観光メニュー並びに季節ごとに日本の情緒や風情を楽しむことのできる日本庭園「花田苑」や能舞台を備えた日本文化伝承の館「こしがや能楽堂」があります。さらに、南越谷阿波踊りや大型商業施設であるイオンレイクタウンなど、外国人の嗜好にあった観光資源が多く存在していることから、これらの観光資源を活用しながら、インバウンド観光に取り組みます。

6	P31の基本方針1② 「★水辺空間を活用した新たなコンテンツづくり」	「水辺空間」を観光資源と捉えることについて、越谷市には5本の一級河川はあるが、他の「水郷」といわれている地域と比較すると課題がある印象である。河川があるということで、「水辺空間」を観光資源に結びつけるのは、困難だと考えるがいかがか。	越谷市を流れる5本の一級河川や葛西用水、さらに大相模調節池などの水辺空間は、越谷市の大きな特長であり魅力の1つです。リーディングプロジェクトとして「水辺空間を活用した新たなコンテンツづくり」を位置づけ、(一社)越谷市観光協会などの関係者と連携を図りながら、新たな魅力を創造するコンテンツづくりに取り組みます。
7	P31の基本方針1② 「★水辺空間を活用した新たなコンテンツづくり」	大相模調節池は有望な資源だが、その他の河川等の水辺空間についてはさらなる改善が必要だと感じる。市民の方々が楽しいと感じるような「水辺空間」であれば、市外からの集客も可能になると考えるがいかがか。	越谷市を流れる5本の一級河川や葛西用水、さらに大相模調節池などの水辺空間は、越谷市の大きな特長であり魅力の1つです。リーディングプロジェクトとして「水辺空間を活用した新たなコンテンツづくり」を位置づけ、(一社)越谷市観光協会などの関係者と連携を図りながら、新たな魅力を創造するコンテンツづくりに取り組みます。
8	P33の基本方針2① 「★イオンレイクタウンとの連携と回遊性の向上」	イオンレイクタウン来訪者は、越谷市に観光に来ているという意識は乏しく、回遊性の向上を図るためには、宣伝と魅力ある観光資源、二次交通の整備が必要になると思う。まずは、イオンレイクタウン来訪者に観光情報を与える施設や活動が必要になると考えるがいかがか。	イオンレイクタウンの年間約5,000万人の来訪者や知名度は、観光資源として考えると大きな強みとなります。観光情報の発信方法の検討やイオンレイクタウンと連携したイベントの開催、市内観光スポットへ誘客するコンテンツの開発など、回遊性の向上に取り組めます。また、交通拠点と観光スポット、観光スポット相互を結ぶ公共交通手段の充実に取り組めます。
9	P33の基本方針2① 「★イオンレイクタウンとの連携と回遊性の向上」	イオンレイクタウン来訪者に市内を回遊させるためには、観光案内看板の設置などの工夫が必要だと考えるがいかがか。	イオンレイクタウンの年間約5,000万人の来訪者や知名度は、観光資源として考えると大きな強みとなります。観光情報の発信方法の検討やイオンレイクタウンと連携したイベントの開催、市内観光スポットへ誘客するコンテンツの開発など、回遊性の向上に取り組めます。また、交通拠点と観光スポット、観光スポット相互を結ぶ公共交通手段の充実に取り組めます。
10	P33の基本方針2① 「★イオンレイクタウンとの連携と回遊性の向上」	イオンレイクタウン来訪者が市内を回遊するためには、魅力的な観光資源とともに、マーケティング調査が必要になると考えるがいかがか。	当該計画を策定するにあたり、越谷市内在住者及び近隣市町在住者を対象とした観光レジャーに関するアンケート調査を実施しています。また、平成26年度には、越谷市商工会にて、越谷レイクタウン駅利用者等を対象とした来訪者調査を実施しています。今後についても、市民及び来訪者のニーズ把握に努め、観光振興を推進します。
11	P33の基本方針2② 「★食を活かしたトップブランドの創出」	食のトップブランドの創出に向けて、越谷出身企業などと連携して取り組むべきだと考えるがいかがか。	越谷市は、古くからくわいやねぎ、ほうれん草などの良質な農産物が生産されています。また、近年では、イチゴやこしがやブランド認定品、さらにはご当地グルメのこしがや鴨ネギ鍋など、市民に親しまれている「食」があります。生産者、食品加工会社および販売店などの民間事業者との連携による、食のブランド化に取り組めます。

12	P34の基本方針2③ 「中心市街地や地域産業の観光資源化」	越ヶ谷宿に多数現存している懐かしい木造の建物を越谷市の観光資源として活用してはいかがか。	日光道中第三の宿場町「越ヶ谷宿」には、歴史的建築物が多数存在しています。これらの歴史的まちなみを観光資源として捉え、ストーリー性を加えるなどの付加価値を与えるなど魅力の創出に取り組みます。
13	P35の基本方針3① 「時代を先取りする地域の魅力の掘り起こし」	「オンリーワンのコンテンツづくり」は必要であり、シックプライドの醸成にもつながるものとする。その地域の歴史は、ユニークさがあるとともに、オンリーワンのコンテンツも多いことから活用を検討してはいかがか。	越谷市には、あまり知られていない、又は観光資源として捉えてこなかった地域資源も多くあります。”ナンバー1”や”オンリー1”などをキーワードとした地域の魅力の掘り起こしなど、時代に応じた魅力の創出に取り組みます。
14	P35の基本方針3② 「★(株)JTB関東のノウハウを活かした展開」	(株)JTB関東との包括連携協定について、越谷市にとって適当な連携事業者であるか疑問があるがいかか。	越谷市と(株)JTB関東は、平成27年6月2日に観光振興に関する包括連携協定を締結しました。(株)JTB関東は、観光分野において、国内外の豊富な情報、ネットワーク及びノウハウを有しています。また、自治体や地域組織の観光振興及び地域におけるブランド推進等の地域交流事業の実績もあります。観光認知度及び越谷ブランド力の向上、観光による地域活性化などについて、相互の強みを活かして取り組みます。
15	P36の基本方針3③ 「★宿泊施設や公共交通などの観光基盤の整備」	市内の観光資源は点在しており、公共交通を利用して回遊することは困難であると感じる。そこで、無料循環バスの運行を検討してはいかがか。	交通拠点と観光スポット等を結ぶ公共交通手段等の充実、観光客の利便性を高めるほか、回遊性の向上にもつながり、より地域の魅力を高めます。このようなことから、交通拠点と観光スポット、観光スポット相互を結ぶ公共交通手段の充実に取り組みます。
16	P36の基本方針3③ 「★宿泊施設や公共交通などの観光基盤の整備」	越谷市は東京都心から近いこと、都内の旅行者が市内に宿泊する可能性があるものとするがいかか。	訪日外国人旅行者は年々増加し、都内及び首都圏における宿泊施設の不足が指摘されています。越谷市は、首都近郊に位置しているという地理的優位性から、宿泊施設の需要はあるものと考えており、民間事業者によるホテル等の宿泊施設の誘致に取り組みます。
17	P37の基本方針4① 「★ターゲットを明確にしたプロモーションの強化」	観光振興には、キャラクターの活用など、多様な情報発信の方法が必要になると考えるがいかか。	インターネットの普及などにより、誰もが情報発信できるブログやフェイスブックなどのSNSによるプロモーションの有効性が高まっています。速報性、双方向性、拡散性などの性質から口コミによる影響力のあるSNSを活用した、市民や観光客と連携した情報発信に取り組みます。また、越谷特別市民「ガーヤちゃん」は、多数のイベントへの参加や民間事業者のイラスト利用が増加しています。キャラクター商品の開発や新たな利用方法の提供など、引き続き利用促進に取り組みます。
18	P37の基本方針4② 「こしがやブランド認定品および伝統的手工芸品等の普及」	地元の農産物やこしがやブランド認定品等は、市民の利用しやすい場所で購入することが可能であればさらに普及するものとするがいかか。	こしがやブランド認定品や伝統的手工芸品等の普及について、関係者が一体となって取り組むとともに、観光・物産を中心とした”こしがや”の魅力を発信する拠点の整備や今後の道の駅との連携を視野に入れた展開を検討します。

19	P37の基本方針4② 「こしがやブランド認定品および伝統的手工芸品等の普及」	越谷の土産品について、「オンリーワン」の商品を生み出すよう推進する必要があると考えるがいかがか。	こしがやブランド認定品制度の活用や食を活かしたトップブランドの創出に取り組む中で、“越谷といえば〇〇”という代表的な商品の開発等を促進します。
20	P39の基本方針5③ 「訪日外国人旅行者の受入体制の整備と地域一体のホスピタリティ」の事業展開例	無料公共無線LAN環境の整備について、「民間事業者」と記述しているのはなぜか。	訪日外国人旅行者の受入体制の整備として、無料公共無線LAN環境提供のニーズは高いと認識しています。民間事業者と連携しその整備に取り組めます。
21	P40の基本方針6① 「★シビックプライド（郷土愛）の醸成」	郷土愛は、「市民に魅力を伝える」のではなく、「そこに住んでいて楽しいか、便利か」ということで醸成されるものとするのか。	市民に地域の魅力を伝えることで、地域についての理解を深め、市民自らが、地域に愛着と誇りを持ち、住んでよかったまち“こしがや”の魅力を全国に発信します。
22	P40の基本方針6① 「★シビックプライド（郷土愛）の醸成」	越谷市は、首都近郊のベッドタウンという性質から他地域より移住してくる方が多く、越谷の歴史等について知る機会が少なかった。シビックプライドの醸成には、地域の歴史を知ることも必要とするのか。	各種媒体や民間事業者をはじめ、小・中学校や高等学校、大学など教育機関、さらには、図書館や公民館などの社会教育施設との連携により、市民に地域の歴史や文化などの魅力を伝えることで、地域についての理解を深め、シビックプライドの醸成に取り組めます。
23	P41の6－1「推進体制」	若い世代の感性や嗜好を取り入れるため、観光関連学部を有する大学との連携も必要だと考えるがいかがか。	当該計画は、文教大学及び獨協大学の学生と意見交換を実施し、若い世代の嗜好や感性、アイデアを取り入れて作成しました。観光振興を推進するあたり、引き続き、大学等の教育機関とも連携し、取り組めます。
24	P41の6－1「推進体制」	市民が所有している越谷の歴史ある写真の活用や市民が行う行事との連携など、地域が一体となった観光振興が必要になると考えるがいかがか。	当該計画を推進するためには、（一社）越谷市観光協会との連携を強化するとともに、民間事業者、市民や市民団体等が実施する観光に関する事業を支援するなど、地域一体となって観光振興に取り組めます。
25	P44の6－3「計画進捗の評価と目標の管理について」	目標を掲げるならば、それに対応する予算等を記載すべきとするのか。	観光振興の主要施策および各種事業は、関係者が一体となり取り組む必要があります。市は、個々の事業を実施する中で、その役割に応じた予算化に取り組めます。